

# 日本民俗学会 第75回年会 東京

## 第2回 サークュラー

コーディネーター： 加藤秀雄（滋賀県/滋賀県立琵琶湖博物館学芸員）  
 塚原伸治（東京都/東京大学准教授）

パネリスト1： 川島秀一（福島県/前日本民俗学会会長）  
 報告タイトル：五感から学ぶ漁船操業—フィールドワークのひとつの可能性—

パネリスト2： 市川秀之（滋賀県/滋賀県立大学教授）  
 報告タイトル：フィールドワーク教育を通じた地域社会とのつながり

パネリスト3： 越智郁乃（宮城県/東北大学准教授）  
 報告タイトル：二つのミンゾクガク（民俗学/民族学）的フィールドワークの交錯

コメンテーター1： 内山大介（栃木県/淑徳大学教授）  
 コメンテーター2： 松岡薫（奈良県/天理大学講師）

先般、日本民俗学会第75回年会の案内をさしあげましたところ、298名の参加申し込み、ならびに108名の発表申し込みをいただきました。心よりお礼申し上げます。

さて、このほど年会の詳細が決まりましたので、第2回サーキュラーをお届けいたします。つきましては、参加費等のお振り込みや発表要旨のご提出など、期日までのお手続きを何卒よろしくお願い申し上げます。

日本民俗学会第75回年会実行委員会

### 11. 今後のスケジュール

要旨集広告掲載のお問い合わせ期限 8月9日（水）

参加費納入期限 8月31日（木） これ以降は当日料金になります。

発表要旨提出期限 8月31日（木）

書籍販売・頒布申し込み期限 8月31日（木）

第3回サーキュラー 9月中旬発送予定（参加等申し込みの方のみ）  
 内容：会場案内、発表要領、各発表プログラム

年会当日

公開シンポジウム、研究奨励賞授賞式、会員総会、懇親会 10月21日（土）

研究発表（個人、グループ） 10月22日（日）

※ 新型コロナウイルス感染症については、政府の「基本的対処方針に基づく対応」（<https://corona.go.jp/emergency/>）に則した感染防止策を講じます。具体的な対策については今後のお知らせ等で示します。なお、開催当日までの感染状況に応じて、開催方法等が変更となる場合があります。

※ 実行委員会では宿泊等の斡旋は行いません。

### 第75回年会実行委員会事務局

〒157-8511 東京都世田谷区成城 6-1-20  
 成城大学文芸学部 小島孝夫研究室気付  
 日本民俗学会第75回年会実行委員会事務局  
 e-mail: minzokugaku75@gmail.com  
 ※ お問い合わせは e-mail をご利用ください。

### 1. 大会概要

主催 一般社団法人 日本民俗学会  
 協力 成城大学  
 期日 2023年10月21日（土）・22日（日）  
 会場 成城大学（東京都世田谷区成城6丁目1番20号）  
 会場アクセス

小田急線成城学園前駅から徒歩で4分。  
 （急行は停車しますが、快速急行は停車しません）

※ 会場の所在、アクセスに関しては成城大学ウェブサイトもご参照ください。  
<https://www.seijo.ac.jp/access/>



### 2. 大会プログラム

10月21日（土） 公開シンポジウム・授賞式・総会・懇親会  
 12:00～ 受付開始（3号館1階エントランス）  
 13:00～16:00 公開シンポジウム（3号館地下1階003教室）  
 「民俗学でつながる、民俗学をつなげる  
 —フィールドワークのこれからを考える—」  
 16:10～17:50 研究奨励賞授賞式、会員総会  
 18:00～20:00 懇親会（本部棟1階学生食堂）

## 10月22日（日） 研究発表

9:00～ 受付開始

9:30～12:00 研究発表

12:00～13:00 休憩

13:00～17:00 研究発表

※ 今後の状況の変化により、プログラム内容が変更となる場合があります。

※ 開始・終了時刻はいずれも現時点での予定です。発表プログラムは9月中旬に参加等申込者に送付する予定の第3回サーキュラーでお知らせいたします。

※ 今年度の年会は、プレシンポジウムおよび見学会を企画しておりません。

### 3. 参加費の納入方法

#### (1) 納入方法と期限

本サーキュラーに同封の「払込取扱票」に、納入金額の内訳、合計金額等必要事項をご記入のうえ、下記の「ゆうちょ銀行」振替口座にお振り込みください。払込手数料につきましては、恐れ入りますがご負担願います。

【口座番号】 00210-5-109542

【加入者名】 日本民俗学会年会実行委員会

- ・同封の「払込取扱票」を紛失された場合は、郵便局の払込取扱票(青色)の通信欄に、納入金額の内訳(年会参加費・懇親会参加費・2日目(日)弁当代等の別)を明記のうえ、払い込んでください。
- ・年会参加費等の納入期限は8月31日(木)です。期日にて振込口座を閉鎖いたしますので、余裕をもって手配をお願いいたします。
- ・研究報告を行うには「期日までの年会参加費の納入」ならびに「日本民俗学会の年会費が完納されていること」が条件となっております。いずれかまたは両方を満たさない場合、発表辞退として取り扱う定めです。十分にご注意ください。
- ・口座閉鎖後のお支払いは当日受付で、当日料金にて申し受けます。またその場合には、名札の事前用意や発表要旨集・弁当の取り置き等はいたしません。
- ・自然災害等の不可抗力によって大会が中止となった場合にも参加費の全額返金はいたしかねます。必要経費等を差し引いた上で、後日の返金措置となりますため、何卒ご理解ください。
- ・第2回目以降のサーキュラーは、7月3日(月)までに参加申し込みをされた方のみにお送りいたしております。なお電子版のサーキュラーは年会ウェブサイトに掲載します。

#### (2) 参加費

年会参加費は第1回サーキュラーでの告知の通り、3頁の表のように定めます。懇親会費、

## 10. 公開シンポジウムのご案内

### 民俗学でつながる、民俗学をつなげる ーフィールドワークのこれからを考えるー

#### 主旨

日本民俗学会の前身である民間伝承の会の機関誌『民間伝承』第4号(1935)の巻頭言で宮本常一は、「この学問の面白さは読者が同時に実践者たり得る所である」と述べている。この巻頭言のタイトルは「採集者の養成」なので、ここでいわれている「実践」とは、民俗採集であることがわかるだろう。そして、その成果を発信する『民間伝承』誌は、全国の民俗学者のネットワークを形成するプラットフォームに成長していった。

それから90年近い時を経た現在、民間伝承の会は日本民俗学会に名称を変え、民俗採集よりもフィールドワークという言葉の方が、私たちにとって馴染み深いものとなっている。この「民俗採集からフィールドワークへ」という変化は、自然物の標本採集のように「民俗」の採集を目指す調査から、より広い関心に基づく調査が行われるようになったことを示しているといえるだろう。しかし、それは過去に共有されていた斯学の対象と目的を拡散させるものでもあり、フィールドワークも「人それぞれ」のものになってしまう側面があった点は否めない。さらに現在の民俗学は、調査研究の場もフィールドワークの主体も多様性を増しており、本会の会員は大学、地方学会、博物館、行政機関など多様な組織で、様々な目的のもと、フィールドワークの経験を積んできたと思われる。

このような現状認識のもと、本シンポジウムではいま一度、民俗学のフィールドワークは何のために行うものなのか、そしてそれが何を生み出すのかということを考えてみたい。フィールドワークの主目的が、そこに行かなければ得られない情報を得ることであることは論を俟たないが、近年の様々な研究成果を鑑みるに、フィールドワークにはそれだけに留まらない可能性があるように感じられる。例えば、フィールドで出会った人々と民俗学者が協働して地域活性化に関わる活動を行ったり、最初は観察対象でしかなかった祭礼や芸能に自ら参加したりして、そこで得た経験を記述するといった例は、単なる情報収集の枠に留まらないものとして位置づけられる。すなわちフィールドワークは私たちと社会をつなげるものであり、それがより深いレベルの研究に接続される可能性を持つものとして捉えることが可能なのである。

このようなフィールドワークの可能性を考えるにあたって、本シンポジウムでは、長年にわたり精力的なフィールドワークを続けている3名の会員をパネリストに指名し、その実践に学びながら、これからのフィールドワークのあり方について考えたい。登壇者は、それぞれ活動する地域も専門も異なっているが、フィールドワークをとおして人と社会につながり、その成果を学界内外に発信し続けている点は共通している。今回は、これからの民俗学を担う若い世代の会員にも、民俗学のフィールドワークに対する理解を深めてもらう、すなわち「民俗学をつなげる」ことも意識しつつ、今後の民俗学がどのように人、あるいは社会とつながっていけばよいかということを議論したい。(文責・加藤秀雄)

## 8. 書籍販売・頒布について

- ・本年会では10月21日（土）～22日（日）の2日間、書籍販売・頒布ブースを設置します。書籍や学会誌、調査報告書等を販売・頒布いただけます。出展を希望される個人もしくは団体は、下記の第75回年会ウェブサイトのフォームよりお申し込みいただくか、登録票に入力のうえメール送付にてお申し込みください。
- ・書籍販売・頒布ブースにお申し込みいただけるのは、出版社のほか、会員個人もしくは会員の所属する団体です。書籍、報告書のほか、会員に資するものであれば販売・頒布いただけます。出展は無料ですので、奮ってお申し込みください。
- ・ブースの数には限りがありますので、申し込みが多数の場合はご辞退いただく場合があります。

### 書籍販売・頒布会場

会場は3号館入ってすぐの1階学生ホールです。

### ブースで使用可能な机・椅子

四角机（縦75cm×横120cm×高さ70cm）:1台

椅子：机1台につき2脚

申し込み締切 2023年8月31日（木）

### 書籍販売・頒布申し込みフォーム

<https://forms.gle/AfD21pA1gsJAJWFLA>

### 書籍販売・頒布登録票送付先

日本民俗学会第75回年会実行委員会書籍販売・頒布担当

minzokugaku75shoseki@gmail.com

- ・メールの添付ファイルでお送りください。
- ・メール件名は「第75回年会書籍販売・頒布申し込み（団体・個人名）」としてください。
- ・お申し込みいただいた方には、8月31日（木）申し込み締切後に「日本民俗学会第75回年会 書籍販売・頒布の手引き」をお送りします。
- ・書籍販売・頒布会場には、年会の参加者が自由にチラシ等を配布できるテーブルを用意する予定です（こちらは申し込み不要です）。

## 9. 広告の募集

発表要旨集への広告掲載を希望される方は、8月9日（水）までに年会実行委員会事務局要旨受付担当（minzokugaku75youshi@gmail.com）宛にメールで詳細をお問い合わせください（メールの件名は、「広告掲載の問い合わせ」としてください）。年会実行委員会から「広告掲載のお願い」の文書を受けとられた出版社・団体は、このお問い合わせは不要です。

弁当代は、それぞれ該当する方のみ払い込んでください。払い込み期限は8月31日（木）です。これ以降は会場にて当日料金をお支払いください。

- ・会場の成城大学近辺にはコンビニエンスストア、スーパー、飲食店がございますが、大学内の学生食堂は両日とも休業しております。弁当の事前申し込みをしていない方は、持参をおすすめします。
- ・非会員の方は事前申し込みにかかわらず、一般・学生ともに当日受付のみ申し受けます。
- ・前払いの会員「学生」料金は、日本民俗学会の2023年度（2022年9月～2023年8月）会費を学生料金で納めている会員に適用されます。当日の学生料金は、会員・非会員を問わず、年会当日、学生証を提示した方に適用します。

年会参加費	前払い	当日
会員（一般）	3,000円	4,000円
会員（学生）	1,000円	2,000円
非会員（一般）	——	4,000円（当日受付のみ）
非会員（学生）	——	2,000円（当日受付のみ）
懇親会参加費	前払い	当日
会員（一般）	5,000円	6,000円
会員（学生）	2,000円	3,000円
非会員（一般）	——	6,000円（当日受付のみ）
非会員（学生）	——	3,000円（当日受付のみ）
<b>10月22日（日）弁当代</b>	1,000円	——（当日販売なし）

## 4. 要旨集印刷版の購入方法

参加申し込み時に要旨集印刷版の購入を希望された方は、本サーキュラーに同封の「払込取扱票」通信欄の「要旨集印刷版」にチェックを入れ、参加費とともに代金（1,500円）を払い込んでください。なお、希望をされた方でもお支払いの無い場合には当日お渡しはできませんので、ご注意ください。

## 5. 発表要旨の提出

一般発表、グループ発表に申し込まれた方は、以下の要領で報告題目を正式登録のうえ、発表要旨の原稿を実行委員会事務局要旨受付担当に提出してください。お預かりした要旨は電子版の要旨集（PDF ファイル）にて公開します。また、事前に申し込まれた方に当日配布する有料の印刷版の要旨集に掲載いたします。

### （1）題目・要旨提出の概要

提出期限 8月31日（木）24時必着

※期限までに発表題目及び要旨が提出されなかった場合、発表辞退といたします。

## 発表題目の登録

年会ウェブサイト (<https://www.nenkai75.fsjnet.jp>) より「発表題目入力フォーム」にアクセスし、表示に従って、①メールアドレス ②氏名 ③所属 ④発表区分 ⑤正題 ⑥副題の順で入力してください。いただいた内容で発表登録をいたします。

**発表要旨の提出** 【送付先アドレス】 minzokugaku75youshi@gmail.com  
(年会実行委員会事務局要旨受付担当)

※研究発表要旨を受け付ける専用のアドレスで、年会実行委員会事務局のアドレスとは異なります。

【メール件名】 発表要旨 (発表者氏名)

【ファイル名】 発表者氏名

## グループ発表要旨の提出

グループ発表の代表者は、個別の「研究発表要旨」とは別に、グループ発表全体についての要旨(グループ発表要旨)をご提出ください。この文字数、提出方法等は全て個人発表の方法に準じます。

### (2) 発表要旨の執筆要領

発表要旨は以下の要領に従ってご用意ください。不明の場合は事務局までお問い合わせください。

- ① 要旨のファイル形式は MS-Word (.docx) とします。
- ② ページ設定は A4 縦長 1 頁とし、横書きとします。冒頭に年会ウェブサイトから登録したものと同一正題、副題、氏名及び所属を明記してください。
- ③ 本文は、43 字×38 行の文字数を標準とし、最大 1600 字程度としてください。本文には、冒頭の正題、副題、氏名及び所属は含まれません。分量を超過し、1 頁に収まらない原稿につきましては、発表者同士の公平のため、期日内に再提出していただくか、もしくは超過分の打ち切り掲載といたします。
- ④ 引用、参照のルールについては特に指定をしません。「段下げ」「1 行空け」などの指示については、提出いただいた元原稿に準じてレイアウトいたします。なお、註は使用できません。
- ⑤ 各発表者が要旨を作成する際のフォント等は指定しません。なお、要旨集掲載時のレイアウトや形式は実行委員会に一任いただきます。
- ⑥ 傍点・下線・ルビなどの使用は必要最小限とし、多用は避けてください。
- ⑦ 異体字や外国語などの正確な表記は、意向に沿えない場合があります。予めご了解ください。
- ⑧ 写真・図表を使用してもかまいません。ファイル中に貼り付けて提出してください。サイズは要旨集の編さん時に調整しますが、1 枚あたり 400 文字換算を目安とし、本文の文字数を減らしてください。写真・図表につきましては、電子版はカラー、印刷版は白黒での掲載となります。キャプションはつけられません。基本的にページの最下段に配置します。細かいレイアウト上の指定、画像の解像度や印刷品質上の要望は承りかねます。

⑨ 明白な誤字、脱字等は実行委員会において修正いたしますが、校正・校訂の責まで負うものではありません。要旨は必ず完全原稿として作成してください。

⑩ 発表内容は未発表のものに限ります。重複発表が判明した場合には、参加費の納入いかんにかかわらず、発表をお断りすることとなります。

## 6. 発表の準備について

- ・個人発表は発表 20 分・質疑応答 5 分・移動 5 分を 1 ユニットとします。グループ発表の時間枠は 120 分とし、その配分は代表者にお任せします。発表時間の超過が生じないよう、ご協力をお願いいたします。
- ・個人発表につきましては、会場教室に座長とタイムキーパー(ベル係)を実行委員会より手配します。グループ発表につきましては、座長、タイムキーパーともに手配しません。
- ・レジュメを配布する場合、事前に各発表者が印刷したものを持参してください。実行委員会では印刷を承っておりません。またステープラー等の貸出も行っておりません。
- ・聴講者に配布するレジュメは、各会場入り口付近に長机を用意しますので、開始後はそちらに配置いたします。発表終了後もそのままにしないでいただきますが、会期後は処分いたします。
- ・発表会場の各教室には、一律に以下の設備を用意します。  
①HDMI ケーブル ②会場 PC (OS は Windows です) ③備え付けプロジェクター
- ・PC を持ち込む方は、お手持ちの機器に①の接続端子があるかご確認ください。もしくは①に接続するアダプターをご用意ください。なお接続不調に備え、会場 PC の利用に切り替え可能であるよう、USB メモリー等でデータを別に持参されることをおすすめいたします。
- ・会場の機材は動画や音声の出力に十分適しておりません。
- ・会場では eduroam を用いた wifi 接続が使用可能ですが、通信の安定性につきましては実行委員会では保証いたしません。オンライン環境を前提としたプレゼンテーションは各自の責任でお願いいたします。

## 7. 会場託児室の利用とその他託児サービスの費用補助について

会場託児室とその他託児サービスの費用補助には、年会参加申し込み時に登録が必要です。

本年会では成城大学 3 号館 2 階に託児室を開設予定です。保育は外部の業者へ委託します。保育業者と、託児室の金額および補助額については、8 月上旬に年会ウェブサイトに掲載します。

なお、会場託児室の事前登録が無い方で、やむを得ず利用が必要になった会員の方は、8 月 31 日(木)までにメールにて年会事務局(minzokugaku75@gmail.com)にご相談ください。